

農村振興総合整備事業 ため池等整備事業予定地内 理藏文化財発掘調査報告書

新宮遺跡発掘調査報告書

平成21(2009)年11月

松江市教育委員会

財団法人松江市教育文化振興事業団

農村振興総合整備事業 ため池等整備事業予定地内 理藏文化財発掘調査報告書

新宮遺跡発掘調査報告書

平成21(2009)年11月

松江市教育委員会

財団法人松江市教育文化振興事業団

例　言

1. 本書は、平成18年度に国庫補助を受けた、ため池整備事業（廻山池）に伴う新宮遺跡発掘調査報告書である。
2. 本書で報告する発掘調査は、島根県松江県土整備事務所から松江市教育委員会が委託を受け、財団法人松江市教育文化振興事業団が実施した。
3. 調査地は、島根県松江市岡本町1138番地に所在する。
4. 現地調査の期間は、以下のとおりである。

平成18年6月8日～7月18日まで。

5. 開発面積及び調査面積は、以下のとおりである。

開発面積 1,900m²

調査面積 288m²

6. 調査組織は以下のとおりである。

平成18年度

【発掘調査】	〈調査主体者〉	松江市教育委員会	教育長	福島 律子
			参事	岡崎雄二郎
	事務局 文化財課		調査係長	飯塚 康行
			主任(事務担当者)	後藤 哲男
〈調査指導〉	島根県教育委員会 文化財課		勝部 智明	
〈実施者〉	財団法人松江市教育文化振興事業団		理事長	松浦 正敬
	埋蔵文化財課		課長	廣江 眞二
			調査係長	瀬占 謙子
			主任(事務担当者)	門脇 誠也
			調査担当者	落合 昭久
			調査補助員	秦 愛子

平成21年度

【報告書】	〈調査主体者〉	松江市教育委員会	教育長	福島 律子
	事務局 文化財課		課長	吉岡 弘行
			調査係長	飯塚 康行
			主任	川上 昭一
〈実施者〉	財団法人松江市教育文化振興事業団		理事長	松浦 正敬
	埋蔵文化財課		課長	廣江 真二
			課長補佐	錦織 慶樹
			主任(事務担当者)	門脇 誠也
			調査担当者	落合 昭久
			調査補助員	秦 愛子

7. 本書の刊行に当たっては、出土遺物について、廣江耕史氏（島根県埋蔵文化財調査センター）に有益なご指導、ご教示を頂いた。記して感謝の意を表したい。
8. 本書に掲載した遺物・遺構図の実測・浄書・観察は、高尾万里子、田中和美の協力を得て、秦が行なった。
9. 本書に掲載した現場写真・遺物写真は、落合、秦が撮影した。
10. 本書の執筆・編集は、松江市教育委員会文化財課の協力を得て、秦が行なった。
11. 本書における方位は公共座標北を示し、座標値は日本測地系に準拠した公共座標第Ⅲ系の値である。またレベル値は海拔標高を示す。
12. 出土遺物、実測図及び写真等の資料は、松江市教育委員会において保管している。

目 次

例言

第1章 調査に至る経緯 1

第2章 遺跡の位置と歴史的環境 2

第3章 調査の経過と方法 4

第4章 発掘調査の成果 6

第5章 まとめ 14

遺物観察表 17

写真図版

抄録

挿図目次

第1章

第1図 島根県・松江市位置図

第2章

第2図 新宮遺跡 位置図

第3図 周辺の遺跡分布図

第3章

第4図 新宮遺跡 工事・調査範囲図

第5図 新宮遺跡 工事・調査範囲図

第4章

第6図 新宮遺跡 調査区全体図

第7図 第8層 出土遺物①

第8図 第8層 出土遺物②

第9図 第8層 出土遺物③

第10図 第9層 出土遺物

写真図版目次

図版1 調査前遠景（南東から）

調査前近景（南東から）

図版2 調査区 埋め戻し前（東から）

A-A' 土層断面（南東から）

図版3 B-B' 土層断面（北東から）

調査区 完掘後（東から）

図版4 第8層 出土遺物

図版5 第8層 出土遺物

図版6 第8層 出土遺物

図版7 第8層 出土遺物

第9層 出土遺物

第1章 調査に至る経緯

松江市秋施町に所在する魁田池は、堤体及び取水施設の老朽化により、地域安全度の低下や水管理労力の増大が問題となっており、堤体決壩による被害も懸念された。このため島根県では、地域の防災安全度の向上、水利用の合理化、ため池管理労力の節減と効率化を図ることを目的として、改修工事を実施することになった。

この事業に先立ち、平成17年12月27日に島根県松江農林振興センター（現島根県松江県土整備事務所）から松江市教育委員会あてに、事業計画区域における埋蔵文化財の分布調査依頼書が提出された。依頼を受けた当市文化財課では、同日に対象地の分布調査を実施し、工事予定地内により詳細な試掘調査を必要とする場所3箇所を確認し、平成18年1月4日付け松教文第530号で回答した。

この後、平成18年2月23日に試掘調査を実施したところ、堤体下の畠地に設定したT1トレンチから遺物包含層を確認した。このため当地の小字名をとって『新宮遺跡』として文化財保護法上の手続きをとり、工事計画の変更が困難なT1トレンチ周辺については平成18年6月8日から7月18日の期間で本発掘調査を実施することになった。

なお、本発掘調査については財團法人松江市教育文化振興事業団へ業務委託することで実施している。



第1図 島根県・松江市位置図

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

新宮遺跡は、松江市岡本町に所在する。本遺跡の南側には宍道湖が広がっており、辺り一帯は、南北に派生する低丘陵地帯が連なる。これら丘陵の山間には小河川が発生し、宍道湖に流れ込んでいる。元来この地の人々は、これらの小河川を利用して、田畠や水田を作り、生活の基盤を築いたものと思われる。そして、低丘陵上や麓には、数多くの集落・埋葬施設が営まれた。

本遺跡である新宮遺跡（1）は、宍道湖に程近い丘陵の突先に当たる谷部に所在する。遺跡の北西側には「廻田池」と称される農業用貯水のため池が所在し、ため池の堤体下は畑地として使用されている。また、調査区及びその周辺は、旧秋鹿小学校の敷地であったことが分かっている。

以下、周辺の遺跡について時代を追って概観する。なお、縄文時代の遺跡は、現時点では発見されていない。弥生時代は石の堂遺跡（2）で弥生土器が出土しているが、遺構は確認されていない。

古墳時代 本遺跡の西側に、狐松古墳（3）が隣接する。また、丘陵の尾根に沿って北西方向に、崎山古墳群（4）、桑地谷古墳（5）、三栗屋奥古墳群（6）、石曳古墳（7）、横木古墳群（8）が造られた。秋鹿川を挟んで東側の丘陵上には、亀割坂古墳（12）、方墳7基を有する廻田古墳群（13）が所在し、北東に向かうと、雲岸寺古墳（21）、雲岸寺東古墳群（23）などがある。この丘陵は南北方向に伸び、最南は宍道湖に面する小高い丘である。ここに岡本友田古墳群（9）、後山古墳（10）が造られた。秋鹿川の上流には、25穴の横穴墓を確認した祝谷横穴群（27）、結込古墳群（26）が



第2図 新宮遺跡 位置図 ($S = 1 : 80,000$)

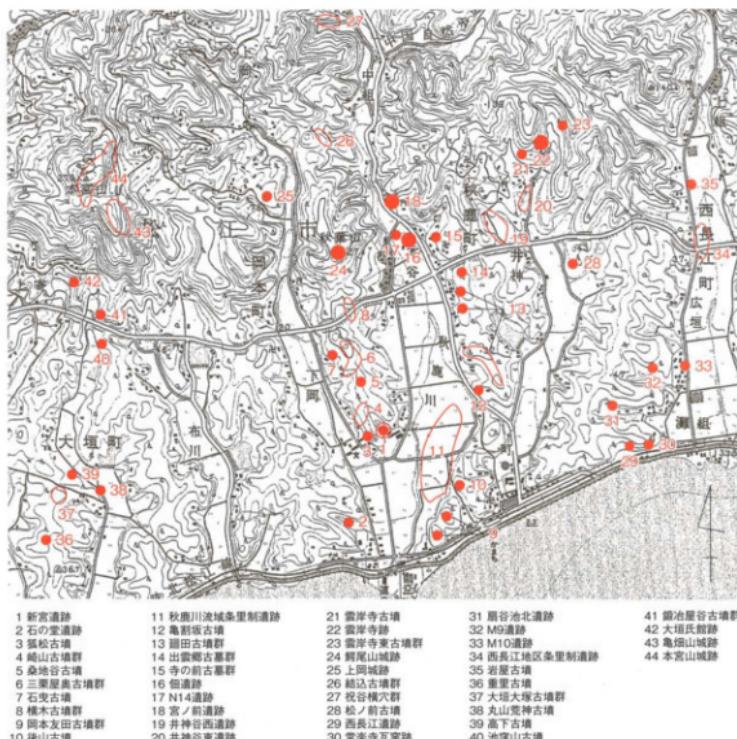
所在する。新宮遺跡から南西方向へ下った大垣町の低丘陵上には、重里古墳（36）、大垣大塚古墳群（37）、丸山荒神古墳（38）、高下古墳（39）が集中して造られており、北側には池窪山古墳（40）、鍛冶屋谷古墳群（41）が造られた。

このように、古墳時代には多数の古墳・横穴墓が造られており、その周辺には、個遺跡（16）、宮ノ前遺跡（18）、井神谷西遺跡（19）、井神谷東遺跡（20）、西長江遺跡（29）、扇谷池北遺跡（31）、M9遺跡（32）、M10遺跡（33）などの、須恵器・土師器散布地が点在する。

歴史時代 奈良・平安時代になると、平地部分には秋鹿川流域条里制遺跡（11）、西長江地区条里制遺跡（34）など、条里制の痕跡を示す遺跡が確認されている。

中世以降には、丘陵上に数多くの山城跡が築かれるようになる。新宮遺跡と同丘陵上に位置する秋葉山には、鶴尾山城跡（24）、北西方向に上岡城跡（25）が、大垣町の北に位置する本宮山には本宮山城跡（44）、亀畠山城跡（43）が存在していたことが分かっている。

鳥取県教育委員会「鳥取県遺跡地図 I (出雲・隠岐編)」(2003)



第3図 周辺の遺跡分布図 (S = 1 : 25,000)

第3章 調査の経過と方法

本調査は、島根県松江県土整備事務所発注の、ため池整備事業に伴い行なったものである。ため池工事によって影響を受ける平面積は、約1,900m²を測る。

試掘調査の結果を踏まえ、畠地として使用されていた、ため池の南東側約288m²の範囲の発掘調査を行なうこととなったが、調査中に調査区の壁が崩壊する事態が起こったため、調査途中段階で急速調査区を埋め戻し、調査を終了している。

調査の成果においては、後述する遺物包含層の全てを掘り切っていることから、多大な影響は出なかったが、調査区最下位にて確認している自然流路を掘り切るには至っていない。このことから、調査区断面図等で表す予定であった自然流路の断面は、推定図（破線）となっていることを了承してもらいたい。また、図中に表記した座標値は、測量を行なった図面が日本測地系の値であったため、それをそのまま表記した。

記録写真は、遺構写真に6×7判一眼レフを主に、35mm判一眼レフを補助に用いた。各判共にカラーリバーサル、モノクロフィルムで撮影を行なった。また、遺物写真は、35mmデジタル一眼レフを使用し、デジタルデータ（JPEG）で保存している。



第4図 新宮遺跡 工事・調査範囲図 (S = 1 : 5,000)



第5図 新宮遺跡 工事・調査範囲図 (S = 1 : 2,000)

第4章 発掘調査の成果

発掘調査の概要

本調査は、廻田池の堤体下端に沿う位置に、22.5×12.5mの範囲で設定し行なった。調査の結果、遺構を検出するには至らなかったが、現地表面より約1.0m掘り下げた位置から、遺物包含層（8層）と、その下位に自然流路跡（9～11層）を検出した。以下、土層順に詳細を記す。

1. 土層堆積状況（第6図）

1層（黒色土）は表土で、均等な厚みで水平に堆積する土層である。

2層（淡黄橙色土）・3層（黑色砂質土）は、薄く水平に堆積する土層で、4層（黄褐色土）は部分的に入り込む上層である。5層（明黄橙色土）・6層（明橙色土）は、いずれも水平に堆積する土層である。2～6層の内、2・5・6層には地山ブロック粒の混入を、3層には小石が多量に包含するのを確認している。これらの混入状況と、この土地の時代背景を考慮すると、2～6層は、旧秋鹿小学校の敷地を造成する際に盛られた土と考えられる。

7層（灰色粘質土）・8層（暗灰色粘質土）はいずれも粘性の強い粘土層で、7層と8層を合わせると2.5m以上の厚みを持ち、水平に堆積する。

9層（灰褐色粘質土）は、厚み約0.5mを測り、砂粒や炭を含む粘性の強い土層である。10層（暗青灰色粘質土）は、粘土質の地山が崩れて堆積したと思われる層で、11層（黒灰色土）は粘土と砂が入り込み、炭をわずかに含む。9・11層は、いずれも水の流れを示す砂を確認していることから、自然流路の堆積土と推察する。

遺物は、8層からの出土が最も多く、須恵器、土師器、土製品、中国磁器、木片等が出土している。須恵器は、壺蓋・壺頸・高杯・壺・甕、土師器は壺頸・甕、土製品は土錘が見られる。また、中国磁器は白磁碗が見られる。これらの遺物は破片ばかりで、完形のものは出土していない。須恵器、土師器は焼成不良の割合が高く、摩滅しているものが多数見られた。

9層からは、弥生土器の底部片、複合口縁の土師器の甕が数点出土している。

以下、出土上層別に遺物の詳細を記す。

2. 出土遺物

第8層 出土遺物（第7図～第9図）

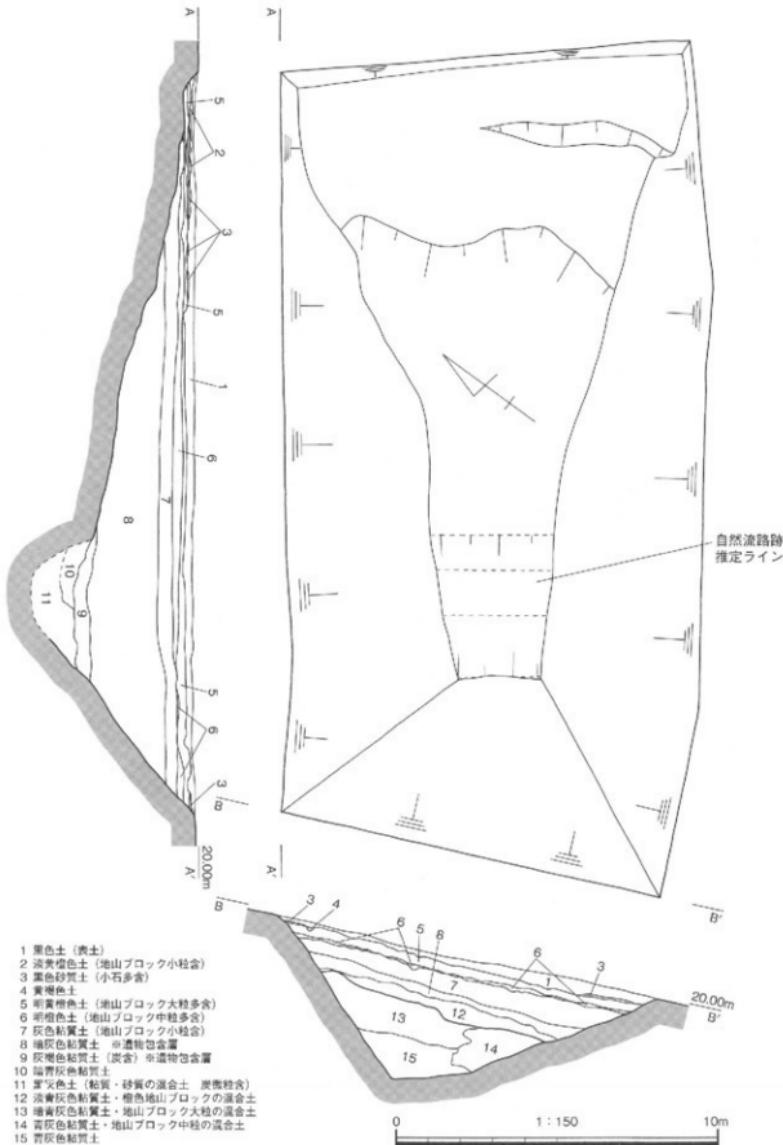
【須恵器】

7-1は壺蓋で、肩部以下の破片である。肩部にごく薄い稜線が見られ、若干の張りをもち、なだらかに下りる。口縁端部は肥厚氣味で内湾する。7-1は、後述する須恵器よりも古い様相を示し、7世紀代のものと考える。

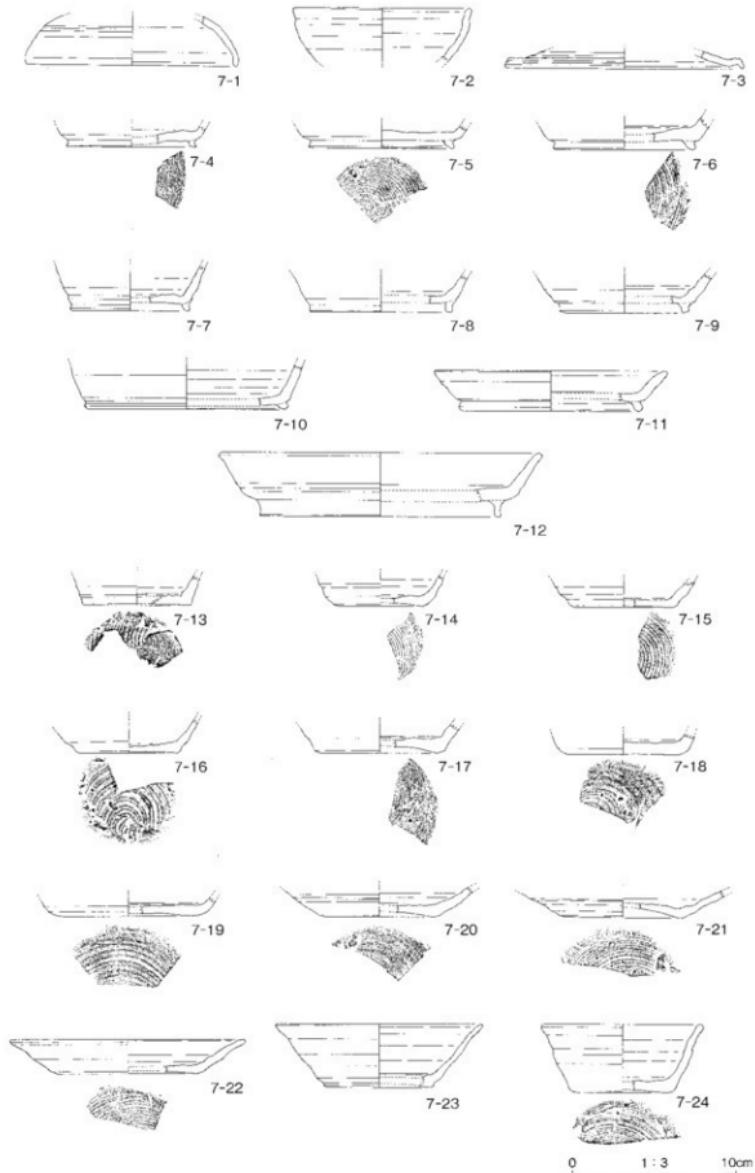
7-2は、口縁端部が括れる壺である。括れは浅く、端部以下は張らずに下りる。

7-3はつまみが付くと思われる壺蓋で、口縁端部の破片である。端部は上から押し潰したように平らで、先端が垂直に屈曲する。

7-4～12は、高台付壺である。7-4～6は高台部分を含む底部の破片で、高台の高さはいず



第6図 新宮遺跡 調査区全体図 (S = 1 : 150)



第7図 第8層 出土遺物① (S = 1 : 3)

れも約0.5cmを測る。高台が底面の外周部に寄り、体部はわずかに外方に張り出して、上方に伸びる。7-7～9は、7-4～6より更に高台が外周部へ広がり、高台の邊から体部が立ち上がるものである。7-10は、外方に聞く低い高台をもち、体部はその真上に直線的に伸びる。7-11は、浅く扁平な皿に高台が付くもので、高台はわずかに内湾し、丸みをもつ。体部は外反気味に大きく開き、端部はわずかに先細る。7-12は、復元口径20.0cmを測るもので、高台は垂直に貼り付けられている。体部は直線的に外傾する。

7-13～24は無高台の坏で、底部はいずれも回転糸切りを施し、未調整のままである。7-13～21は、体部下方から底部にかけての破片である。7-22は、上げ底気味の底部から体部が大きく直線的に聞くものである。口径の割に器高が低く、扁平な形状を呈する。7-20・21も同形態の底部片であろう。7-23は薄手の作りで、7-24はやや厚い作りのものである。7-23・24は、いずれも体部は直線的に聞き、口縁端部付近でわずかに外反する。

8-1は直線的に聞く大形の坏で、復元口径19.2cmを測る。体部に突帯が貼り付けられている。同様の形状を呈する坏の完形品が洪山池遺跡内の須恵器窯⁽¹⁾から出土しており、高台を作う。7-23・24・8-1は、いずれも焼成が甘く、軟質である。

8-2・3は高坏で、8-2は脚部上方の破片、8-3は脚端部の破片である。8-2は、下方に外反して聞き、1段3方向に方形の透かしが入るものと思われる。8-3は底径9.6cmを測り、端部側面に面をもつ。

8-4～9は壺である。8-4は、頸径3.8cmを測る頸部の破片で、筒状を呈する。8-5・6は、高台をもつ底部片である。8-5の高台は垂直に付き、8-6は外傾する高台をもつ。いずれも底部の器壁が厚く、内面の調整は粗雑さが目立つ。8-7は、体部下方から底部にかけての破片で、丸みを保つ形状を呈する。8-8は無高台の壺で、底部全面が残存する破片である。体部は直線的に外傾し、外面下方には、薄いカキ目調整が施される。8-9は復元高台径14.6cmを測る大形壺の、体部下方から底部にかけての破片である。高台は垂直に付き、厚手で丸みをもつ。また、鉢等の可能性も考えられる。

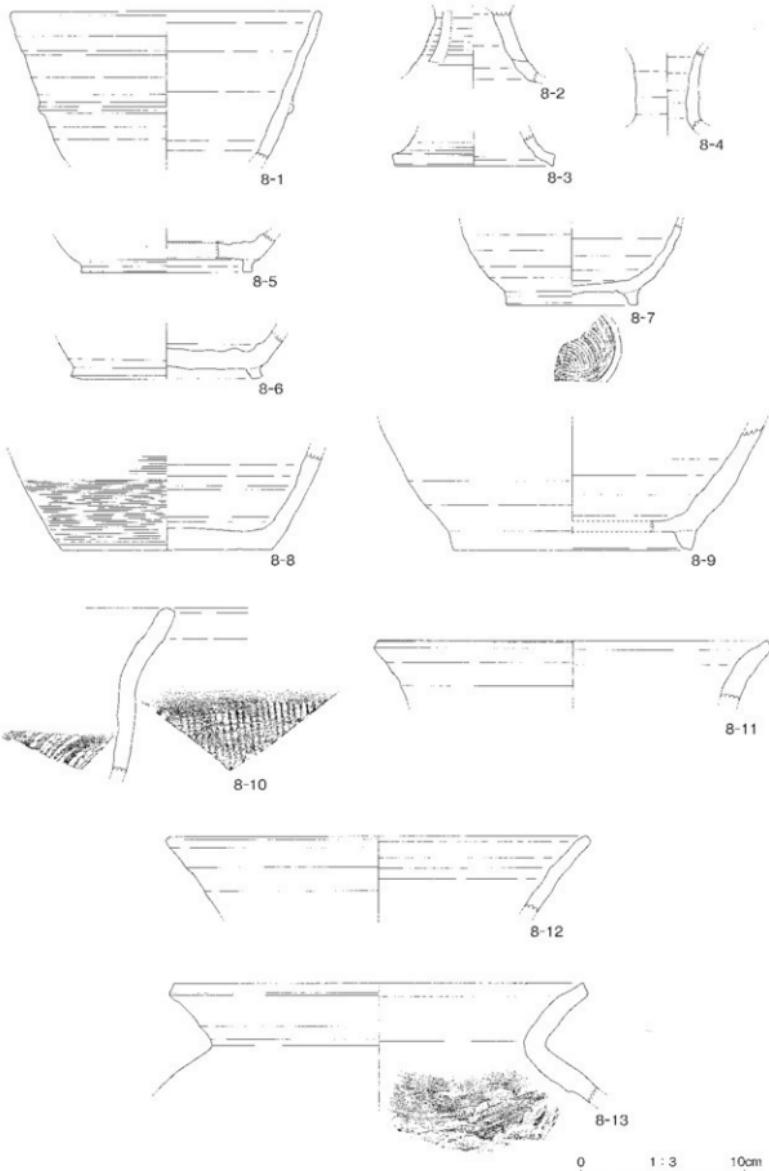
8-10は、大形の鉢か鍋と思われる。体部は張らずなだらかに下りる。調整は外面に平行叩き文、内面に同心円状當て具痕が残る。

8-11～13は壺で、8-11・12は口縁部の破片、8-13は口縁部から肩部にかけての破片である。8-11・13はやや外反気味に、8-12は直線的に聞く。

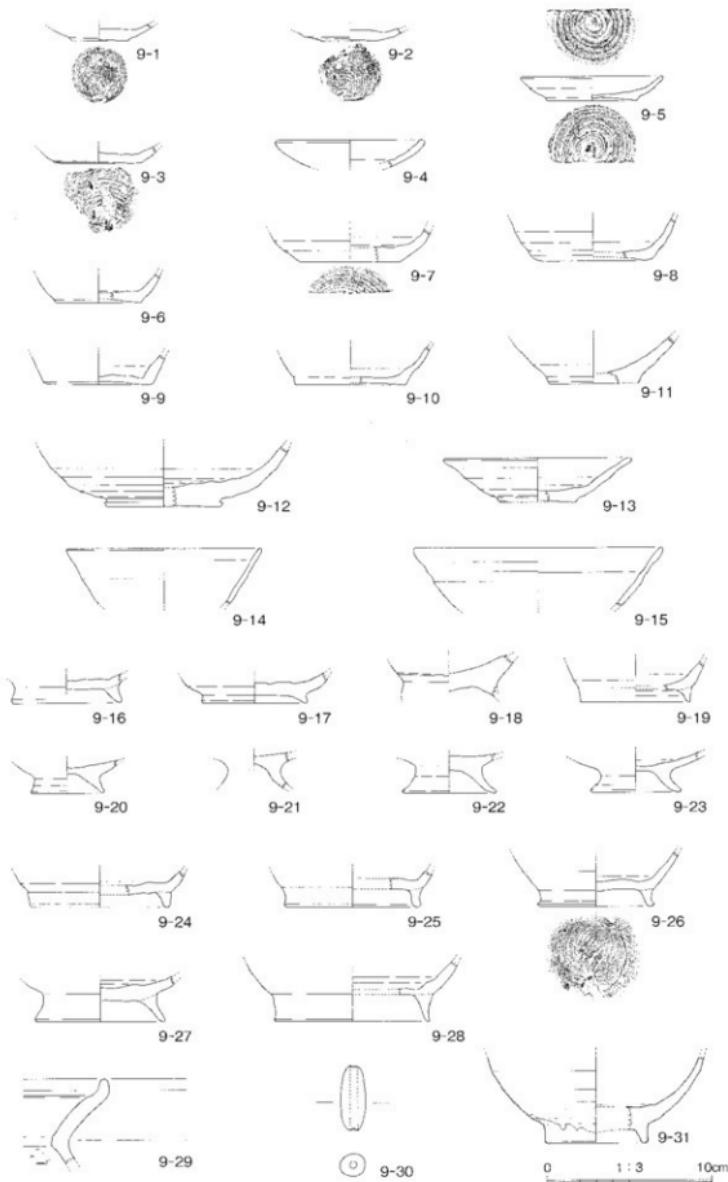
【土師器】

9-1～13は、無高台の坏である。9-1～3は、底部全面が残存するもので、底径は平均で約3.5cmを測り、回転糸切りを施す。9-4・5は、口径10.0cm以下の中形坏である。9-4の口縁部は肥厚し、わずかに内湾する。9-5は調整が特徴的で、外面には粗く雑な糸切り痕が見られ、内面には渦巻き状の痕跡が見られる。9-6～12は、体部下方から底部にかけての破片である。9-12の体部は内湾して大きく聞き、底部は1.5cmの厚みを測り、台状を呈する。9-13は、底部から直線的に大きく聞き、扁平形を呈する。

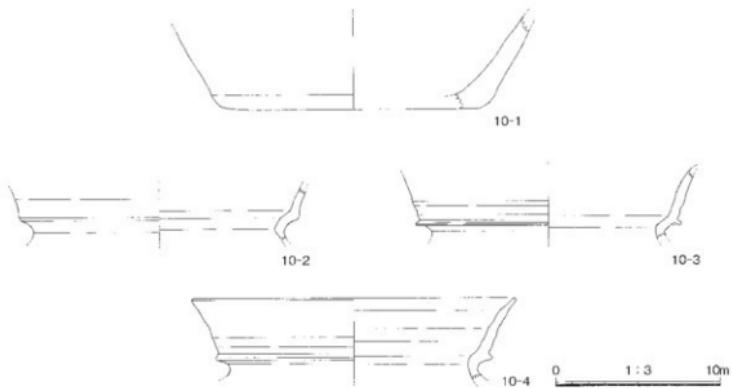
9-14・15は坏で、口縁部から体部上方にかけての破片である。いずれも薄手の作りで、直線的に聞く。



第8図 第8層 出土遺物② ($S = 1 : 3$)



第9図 第8層 出土遺物③ (S = 1 : 3)



第10図 第9層 出土遺物 ($S = 1 : 3$)

9-16~28は高台付壺で、体部下方から高台を含む底部にかけての破片である。9-16~19は、底径が6.0~7.0cmで、「ハ」字状の低い高台が付く。9-20~23は、底径3.5~4.5cmを測り、外反する「ハ」字状の高台をもつ。9-24・25は、いずれも高台径約8.5cmを測る。9-26は、高台端部の接地部分が外方に張り出す。底部内面には、一単位のみの仕上げナデが見られる。9-27は、直線的に伸びる「ハ」字状の高台を持つ。9-28の高台は垂直に付き、接地部分は先細って尖る。

9-29は壺の、口縁部の破片である。口縁部は外反気味に大きく開き、端部付近で内傾する。

【土製品】

9-30は、長さ3.9cm、最大径1.55cm、孔径0.45cm、重量7.8gを測る十鉢である。

【中国磁器】

9-31は中国磁器の白磁碗で、体部から底部にかけての破片である。削り出しの比較的高い高台をもち、高台径6.4cmを測る。体部は内溝し、開き気味に立ち上がる。内面見込み部分には沈線状の段が付けられている。胎土は緻密で灰白色を呈し、黒い微砂粒を含んでいる。釉薬は、いわゆる白磁釉が高台部分を除き施釉されている。時期は口縁部を欠いているため判然としないが、白磁碗IV類⁽³⁾に近い時期のものであろう。

第9層 出土遺物 (第10図)

【弥生土器】

10-1は壺か壺の底部の破片である。復元底径は15.6cmを測るもので、大形品と思われ、平底を呈する。弥生時代中期～後期にかけてのものと思われる。⁽³⁾

10-2~4は複合口縁の壺で、いずれも口縁部の破片である。10-3の口縁部の稜は、やや下方に向かって明確に突出する。10-4の口縁部は、大きく外反して先細る。いずれも、草田5期のものと考える。⁽⁴⁾

《注釈》

- (1) 烏根県教育委員会『洗山池遺跡・原ノ前遺跡』(1997)P135、137参照。
- (2) 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』(1978)
- (3) 松本岩雄「出雲・福井地域『山廬・山陰編』『弥生土器の様式と編年』木耳社(1992)
- (4) 鳥取町教育委員会『蔵式地区県立公園整備事業発掘調査報告書5 南講部草田遺跡』(1992)

《参考文献》

- ・佛浦俊一「出雲地方における歴史時代須恵器の編年試論」『松江考古 第3号』(1980)
- ・鳥根県教育委員会『高広遺跡発掘調査報告書』(1984)
- ・松江市教育委員会『中竹矢1号墳・長峯遺跡』(1986)
- ・鳥根県教育委員会『石台遺跡・馬橋川河川改修に伴う発掘調査報告』(1986)
- ・鳥根県教育委員会『神山遺跡 北松江幹線新設工事・松江港線新設工事予定地内 墓藏文化財発掘調査報告書』(1987)
- ・鳥根県教育委員会『天満谷遺跡 北松江幹線新設工事・松江港線新設工事予定地内 墓藏文化財発掘調査報告書』(1987)
- ・鳥根県教育委員会『中竹矢遺跡 一般国道9号松江道路建設予定地内 墓藏文化財発掘調査報告書X』(1992)
- ・廣江耕史「鳥根県における中世土器について」『松江考古 第8号』(1992)
- ・大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌 第11号』(1994)
- ・本次町教育委員会『妙見山遺跡発掘調査報告書』(1995)
- ・鳥根県教育委員会『門生黒谷1号墳・門生黒谷2号墳・門生黒谷3号墳(門生山根1号窯・門生黒谷1号窯・五反田古墳群)』(1998)
- ・鳥根県教育委員会『三山谷遺跡(vol.1)斐伊川放水路建設予定地内 墓藏文化財発掘調査報告書V』(1999)
- ・鳥根県教育委員会『載小路西遺跡 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内 墓藏文化財発掘調査報告書2』(1999)
- ・鳥根県教育委員会『田中谷遺跡・塚山古墳・下がり松遺跡・角谷遺跡 法吉団地建設に伴う墓藏文化財発掘調査報告書』(2002)
- ・廣江耕史「出雲における中世須恵器について」
『第3回山陰中世土器検討会 資料集 中世須恵器の生産と流通―山陰地方を中心にして―』(2003)
- ・平田市教育委員会『木舟古跡群』(2004)
- ・丹羽野裕「出雲の須恵器室」「須恵器空模様資料集2」(2004)
- ・丹羽野裕「出雲における9~10世紀の須恵器の様相―窯跡のその出土資料を中心に―」
『第4回山陰中世土器検討会 資料集 平安時代前期の土器様相―中国地方を中心にして―』(2005)
- ・林健亮「史蹟出雲国府跡出土の土器について」
『第4回山陰中世土器検討会 資料集 平安時代前期の土器様相―中国地方を中心にして―』(2005)
- ・大阪府立近つ飛鳥博物館『大阪府立近つ飛鳥博物館40年代のものさし―陶器の須恵器―』(2006)
- ・廣江耕史「出雲の土器様相」
『第5回山陰中世土器検討会 資料集 山陰における中世前期の諸様相―伯耆・出雲を中心として―』(2006)
- ・松江市教育委員会/財團法人松江市教育文化振興事業団『岩沙窯跡発掘調査報告書』(2009)

第5章 ま と め

今回の調査では、遺構は検出されなかったが、多量の須恵器・土師器を含む遺物包含層と、自然流路跡を検出した。

遺物包含層（8層）は、厚い堆積状況を示す粘土質の土層であった。ここから出土した須恵器は、一部7世紀代のものを含むが、大半は8世紀末～9世紀代のものと考えられる。また、土師器は9世紀後半～12世紀代を示す。

堆積土9～11層は、谷の奥側（北西）から平野部（南東）に向かって、地形に沿うように流れていた自然流路の埋土であった。この埋土には水の流れを示す砂の堆積が認められ、炭化物や自然木片を包含していた。調査区内で確認したこの自然流路跡は、上端幅約4.5m、下端幅推定約1.0m、深さ推定約1.7mの規模を測り、上層（9層）からは、弥生土器の壺・甕が出土している。遺物の時期は、弥生時代中期～後期を示すものと考える。

調査区内で確認した堆積土は、いずれも本遺跡が所在する谷の周辺から流れ込んだものと推察する。まず、前述の遺物包含層（8層）は、短期間で一気に流れ込む上石流などとは異なり、長い年月を経て堆積した土層である可能性が高いと考える。これは、遺物が7世紀代～12世紀代の時期幅をもつことからも推察出来る。また、摩滅した小片の状態で出土したにも関わらず、接合が可能な遺物が多く見られた。これらのことから、本遺跡の周辺には未だ見ぬ集落跡等の遺構が存在し、そこから遺物が流れ込み、堆積したものと考えられる。

本遺跡が所在する丘陵上には、狐松古墳、崎山古墳群、桑地谷古墳、三樂屋奥古墳群などの古墳が連なるように築かれている。今回出土した遺物は、これら古墳との関連性を示すものとも考えられる。

その他、自然流路跡の埋土（9～11層）は、弥生時代中期～終末期を示す遺物を包含していたことから、少なくともその時代には、本遺跡周辺に人々の生活基盤が築かれていたものと推察出来る。

今回の調査では、新宮遺跡が所在する周間に、遺跡が存在する可能性や、自然流路跡の検出から弥生時代の遺構の可能性を見出すことが出来た。これらは、弥生時代以降、岡本町地域の人々が継続して集落を営んでいたことを示すものと考えられ、また、周辺の遺跡・古墳との関係を明らかにする上でも、重要な資料になり得たと言えよう。

遺物觀察表

掲載番号	種別	器種	残存状況	法量cm			色調		備考
				口径	底径	壁高	外面	内面	
7図-1	須恵器	壺	肩部～口縁部小片	(13.0)		(3.0)	黄灰	黄灰	
7図-2	須恵器	壺	口縁部～底部小片	(11.0)		(3.3)	黄灰	黄灰	口縁部が剥れる
7図-3	須恵器	壺蓋	口縁部小片	(14.8)		(1.1)	灰	灰	つまみが付くか
7図-4	須恵器	高台付壺	底部片		(8.0)	(1.3)	黄灰	灰	底部削り
7図-5	須恵器	高台付壺	底部片		(9.0)	(1.4)	灰	灰	底部削れ系切り
7図-6	須恵器	高台付壺	底部片		(8.8)	(2.1)	黄灰	灰	底部削れ系切り
7図-7	須恵器	高台付壺	底部片		(7.2)	(2.5)	灰	灰	底部削れ系切り
7図-8	須恵器	高台付壺	底部片		(8.8)	(2.3)	灰	灰	
7図-9	須恵器	高台付壺	底部片		(8.0)	(2.3)	灰	灰	
7図-10	須恵器	高台付壺	底部小片		(12.4)	(2.7)	灰	灰	底部削り
7図-11	須恵器	高台付壺	4分の1以下	(14.4)	(11.3)	2.5	暗黄橙	褐灰	
7図-12	須恵器	高台付壺	4分の1以下	(20.0)	(15.0)	3.9	灰	灰	
7図-13	須恵器	壺	体部下方～底部片		(6.8)	(1.9)	灰	灰	底部削れ系切り
7図-14	須恵器	壺	体部下方～底部片		(5.4)	(1.9)	灰白	黄灰	底部削れ系切り
7図-15	須恵器	壺	体部下方～底部片		(6.0)	(1.6)	灰白	黄灰	底部削れ系切り
7図-16	須恵器	壺	体部下方～底部片		6.5	(2.1)	灰白	灰白	底部削れ系切り
7図-17	須恵器	壺	体部下方～底部片		(7.2)	(1.9)	灰白	灰白	底部削れ系切り
7図-18	須恵器	壺	体部下方～底部片		(7.0)	(1.3)	灰褐色	褐灰	底部削れ系切り
7図-19	須恵器	壺	体部下方～底部片		(8.8)	(1.2)	灰白	灰白	底部削れ系切り
7図-20	須恵器	壺	体部下方～底部片		(6.8)	(1.9)	褐色	褐灰	底部削れ系切り
7図-21	須恵器	壺	体部下方～底部片		(7.2)	(1.7)	灰	灰	底部削れ系切り
7図-22	須恵器	壺	4分の1以下	(14.6)	(8.6)	2.1	黄灰	黄灰	底部削れ系切り
7図-23	須恵器	壺	2分の1	(12.7)	(6.4)	3.9	灰	灰	底部削れ系切り 軟質
7図-24	須恵器	壺	4分の1以下	(10.0)	(6.2)	4.2	灰白	灰	底部削れ系切り 軟質
8図-1	須恵器	壺	口縁部～底部片	(19.2)		(9.1)	暗灰	褐灰	体部に突堤あり 軟質
8図-2	須恵器	壺	脚部上方片		脚径(4.6)	(4.3)	黄灰	褐灰	脚部1段3方向方形透かし
8図-3	須恵器	壺	脚端部小片		(9.6)	(2.0)	灰	灰白	
8図-4	須恵器	壺	脚部小片		脚径(3.8)	(5.0)	灰	灰	
8図-5	須恵器	壺	底部片		(10.6)	(2.4)	黄灰	灰白	
8図-6	須恵器	壺	底部のみ		11.8	(3.0)	灰	灰	
8図-7	須恵器	壺	体部下方～底部片		(8.0)	(5.0)	灰白	灰	底部削れ系切り
8図-8	須恵器	壺	体部下方～底部片		13.0	(6.0)	灰	灰	外面ガサ音調整
8図-9	須恵器	壺小鉢	体部下方～底部片		(14.6)	(7.6)	灰	黄灰	跡の可能性あり
8図-10	須恵器	塗付壺	口縁部～底部片	(55.0)		(10.1)	灰	灰	
8図-11	須恵器	壺	山縁部小片	(24.0)		(3.7)	黄灰	灰	外内面自然剥付着
8図-12	須恵器	壺	山縁部小片	(26.0)		(4.6)	褐灰	褐灰	
8図-13	須恵器	壺	山縁部～肩部片	(25.2)		(7.3)	黄灰	灰白	外側自然剥付着
9図-1	土師器	壺	底部のみ		3.5	(1.0)	赤褐	褐	底部削れ系切り
9図-2	土師器	壺	底部のみ		3.6	(0.8)	浅黄橙	浅黄褐	底部削れ系切り
9図-3	土師器	壺	底部片		(5.4)	(1.1)	暗黄橙	暗黄褐	底部削れ系切り
9図-4	土師器	壺	4分の1以下	(9.2)		(1.7)	浅黄橙	浅黄褐	
9図-5	土師器	壺	2分の1	8.8	5.6	1.5	暗黄橙	暗黄褐	底部削れ系切り/内面調整
9図-6	土師器	壺	体部下方～底部片		(5.2)	(1.8)	明黄橙	暗灰黄	
9図-7	土師器	壺	体部下方～底部片		(6.0)	(2.1)	明赤褐	明赤褐	底部削れ系切り
9図-8	土師器	壺	体部下方～底部片		(7.2)	(2.6)	暗橙	暗橙	
9図-9	土師器	壺	体部下方～底部片		(6.8)	(1.9)	橙	橙	
9図-10	土師器	壺	体部下方～底部片		6.8	(2.4)	淡橙	暗橙	
9図-11	土師器	壺	体部下方～底部片		(5.6)	(2.9)	明黄褐	明黄褐	底部削れ系切り
9図-12	土師器	壺	体部下方～底部片		(7.2)	(3.7)	橙	橙	底部削れ系切り接ナメ

掲載番号	種 別	器 種	残存状況	法縦cm			色調		備考
				L径	底径	器高	外面	内面	
9回-13	土師器	壺	4分の1以下	(11.6)	(4.8)	2.7	橙	橙	底部斜軸斜切り
9回-14	土師器	壺	LJ縁部~体部上方片	(12.0)		(3.4)	橙	暗橙	
9回-15	土師器	壺	LJ縁部~体部上方片	(15.4)		(3.7)	暗橙	暗橙	
9回-16	土師器	高台付壺	底部片		(6.8)	(1.8)	明黄褐	暗黄褐	
9回-17	土師器	高台付壺	体部下方~底部片		(6.6)	(1.9)	黄褐	明黄褐	
9回-18	土師器	高台付壺	体部下方~底部片			(2.6)	橙	橙	
9回-19	土師器	高台付壺	体部下方~底部片		(6.8)	(2.6)	暗黄褐	暗黄褐	
9回-20	土師器	高台付壺	体部下方~底部片		(4.4)	(2.0)	橙	暗黄褐	
9回-21	土師器	高台付壺	底部小片			(2.2)	淡橙	淡橙	
9回-22	土師器	高台付壺	底部片		(5.8)	(2.4)	橙	橙	
9回-23	土師器	高台付壺	体部下方~底部片		(5.6)	(2.4)	橙	橙	
9回-24	土師器	高台付壺	体部下方~底部片		(8.6)	(2.3)	浅黄褐	浅黄褐	
9回-25	土師器	高台付壺	体部下方~底部片		(8.4)	(2.3)	暗黄褐	暗黄褐	
9回-26	土師器	高台付壺	体部下方~底部片		7.2	(3.4)	浅黄褐	暗黄褐	底部斜切り
9回-27	土師器	高台付壺	体部下方~底部片		(8.0)	(2.8)	暗黄褐	明黄褐	
9回-28	土師器	高台付壺	体部下方~底部片		(9.6)	(3.7)	暗橙	暗橙	
9回-29	土師器	甕	LJ縁部片			(5.2)	暗黄褐	暗黄褐	
9回-30	上製品	土錐	完形	長3.9	最大径1.55	孔0.45	淡黄		重量78g
9回-31	中国白磁	碗	体部下方~底部片	(6.4)	(5.3)				
10回-1	弥生土器	壺	体部下方~底部片	(15.6)	(6.7)		暗黄褐	暗黄褐	
10回-2	弥生土器	甕	LJ縁部~頸部片	頸径(15.4)		(3.3)	暗黄褐	暗黄褐	複合口縁
10回-3	弥生土器	甕	LJ縁部~頸部片	頸径(14.4)		(4.4)	黑	暗黄褐	複合口縁
10回-4	弥生土器	甕	LJ縁部~頸部片	(20.0)		(5.1)	暗黄褐	暗黄褐	複合口縁

写 真 図 版



調査前遠景（南東から）



調査前近景（南東から）



調査区 埋め戻し前（東から）



A-A' 土層断面（南東から）



B-B' 土層断面（北東から）



調査区 完掘後（東から）



7-1



7-2



7-3



7-4



7-5



7-6



7-7



7-8



7-9



7-10



7-11



7-12



7-13



7-14



7-15



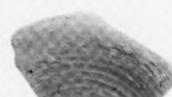
7-16



7-17



7-18



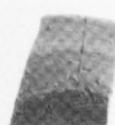
7-19



7-20



7-21



7-22

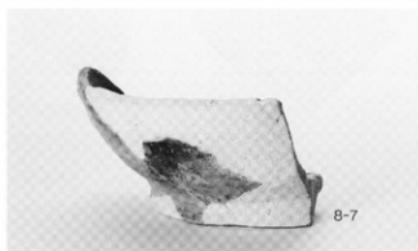
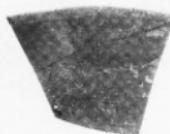
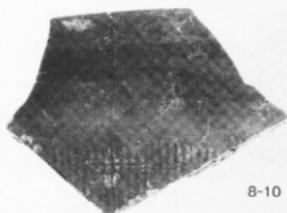


7-24

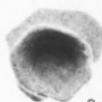
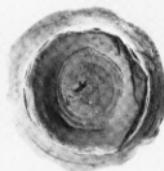
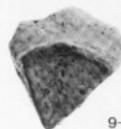
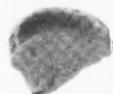
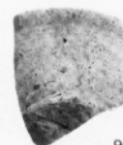
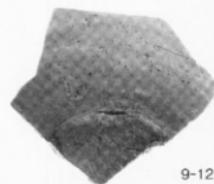
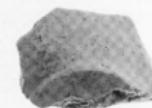
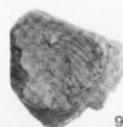


7-23

第8層 出土遺物



第8層 出土遺物





9-20



9-22



9-23



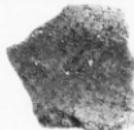
9-27



9-26



9-26



9-29

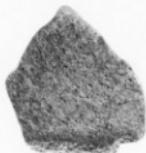


9-30



9-31

第8層 出土遺物



10-1



10-2



10-3



10-4

第9層 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しんぐういせきはっくつちょうさほうこくしょ						
書名	新宮遺跡発掘調査報告書						
副書名	農林振興総合整備事業 ため池等整備事業予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	松江市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第128集						
編著者名	秦 愛子						
編集機関	松江市教育委員会 財団法人松江市教育文化振興事業団						
所在地	〒690-8540 島根県松江市末次町86 〒690-0401 島根県松江市鳥根町加賀1263-1						
発行年月	2009年11月						
所取遺跡名	所在地	コード		※北緯	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	※東経			
新宮遺跡	島根県 松江市 岡本町	32201	D-1037	35°28'53" 132°57'02"	20060608 ～ 20060718	288m ²	ため池 改修工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
新宮遺跡	散布地	弥生 古墳 奈良 平安	遺物包含層 自然流路跡	弥生土器 須恵器 土師器 上製品 中國磁器	弥生中期～終末期の遺物を包含した自然流路跡、7～12世紀代の遺物が入り込む遺物包含層を検出。		

※北緯・東経は世界測地系による。

新宮遺跡発掘調査報告書

平成21年（2009年）11月

発行 松江市教育委員会
財団法人松江市教育文化振興事業団
印刷 今井印刷株式会社